

③ 協働の形態：その他（事業協力）（13件）

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
1	苫小牧市環境美化活動事業 (ゼロごみ推進課)	例年実施 (平成27年頃から継続実施)	苫小牧市内の環境美化を目的とし、市と町内会（自治会）が協働して事業を実施 (1) 地域の大掃除 (2) 不法投棄又は不適正排出のパトロール (3) 文書の配付又は看板の設置等による啓発 (4) 折りたたみ式ごみステーション設置の取りまとめ (5) ごみステーション周辺の清掃又は花壇の設置等による環境整備 (6) 団体間における環境美化に係る意見交換又は協議	町内会・自治会	令和 4年 4月 1日～令和 5年 3月31日	環境美化活動を町内会（自治会）と協働で実施することで、地域事情に応じた取り組みが可能となり、その結果、市民の環境美化への意識が高まった。
2	「053（ゼロごみ）の日」（春・秋） (ゼロごみ推進課)	例年実施 (昭和62年頃から継続実施)	昭和62年度より、大掃除月間中の日曜日を、清潔で住みよいまちづくりのため、自主的に清掃を行い、環境美化と清掃意識の高揚を目的に「まちをきれいにする日」と定めた。以来、全市一斉に付近の道路・公園・空き地などの清掃を実施。平成24年度から「ゼロごみの日」と改称	町内会、自治会、事業所、学校、子供・老人クラブ等	令和 4年 4月17日～ 5月16日 (119団体 13,365人) 令和 4年10月 1日～31日 (121団体 13,534人)	まちぐるみで清掃活動を行った結果、長期間放置されたごみが拾われ、まちがきれいになったほか、市民の環境美化への意識が高まった。
3	「突撃！とまエコ企業」動画制作 (環境保全課)	例年実施 (令和2年度から継続実施)	苫小牧市内の企業におけるエコな取組を取材し、作成した動画をインターネット上で公開することで、市民への環境啓発を行う。 公開方法：苫小牧市公式YouTubeチャンネルにアップロード 周知：広報とまこまい、環境保全課HP、Facebook、LINE	トヨタカローラ苫小牧株式会社、株式会社 Jファーム	令和 4年 4月26日 令和 5年 2月 7日	動画としてインターネット上に公開したことにより、市内企業の有益な環境情報を幅広く発信することができ、市民への環境啓発につながった。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
4	身近なゼロカーボン見学会 (環境保全課)	単年度(新規)実施	市民が自ら実施できるゼロカーボンの先進的な技術について紹介する見学会を実施し、市民の関心・導入意欲を増進させ、市のゼロカーボン推進と市内企業の活性化を図る。 通常の住宅と比較するとエネルギー消費が少なく、さらに自然エネルギーを利用することで、光熱費がかからない「ZEH(ゼッチ)住宅」の説明や、ガソリン車と、HV、EV、FCVといったエコカーの種類・特徴について、CO ₂ 排出量を比較しながら説明を行った。	大鎮キムラ建設 株式会社 トヨタカローラ苫小牧株式会社	令和 5年11月10日 (13名)	参加者アンケート結果より ・苫小牧市内でどの企業がエコな取組をしているのかわからなかったが、身近な企業が存在していたことに驚いた。 ・なんとなく知っていたつもりで太陽光発電を取り入れた住宅について、とても進化していることへの気付きを得られた。 ・ゼロカーボンという言葉もよくわからずに参加したが、ZEHやエコカーの見学によって環境への関心が高まった。 等の反響がありました。
5	観光サポーター (観光振興課)	例年実施(H26年頃から継続実施)	目的 市で協働して観光振興を図る。 内容 市内で開催されるイベントへの協力。市の歴史、文化、自然施設を案内する業務。 その他市の観光振興に資するための事業への協力	個人(令和4年度 登録者は14名)	令和 4年 8月 5日～7日 (4人) 令和 5年 2月 4日～5日 (3人)	例年、観光イベント等において観光案内業務を行っていただいている。 令和4年度は3年ぶりにとまこまい港まつり・とまこまいスケートまつりが開催されたことにより観光サポーターに協力していただいた。
6	公園等里親制度(苫小牧クリーンアップサポーター制度から名称変更) (緑地公園課)	例年実施 (平成14年から継続実施) ※令和3年度に名称変更	苫小牧市が管理する公園、緑地及び道路等などにおいて市民等のボランティアにより、環境美化活動を行うなかで、清潔で美しい街づくりを進めるため。	21団体、1個人 登録人数 814人(令和4年4月1日～令和5年3月31日)	令和 4年 4月 1日～令和 5年 3月31日 (延べ人数 2,164人)	道路や公園などのゴミ拾い以外にも、パークゴルフ場の草刈や桜の施肥などの活動も行っていただいております。環境美化だけではなく維持管理の充実にも寄与している。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
7	定例おはなし会 (中央図書館)	例年実施 (平成元年頃から継続実施)	図書館ボランティア読み聞かせグループ等の協力を得て、子どもたちの読書活動の推進を図る。	図書館ボランティア読み聞かせグループ等	令和 4年 4月～令和 5年 3月 (439人)	定例の図書館事業であるが、継続的な読書推進事業として欠かせない事業。定期的に図書館へ足を運んでもらう事により、参加者同士や参加者とボランティアとのコミュニケーションの場としても活用されている。コロナ前より参加人数は減少傾向であるが、参加者には好評である。
8	本のばくりっこ市 (中央図書館)	例年実施 (平成22年頃から継続実施)	図書館と図書館ボランティアグループ等が協力し、図書館に寄せられた本と市民の持ち寄り本を交換することで、本の再利用と図書館の利用促進を図る。	図書館ボランティアグループ	令和 4年 8月 6日 (114人)	毎年好評の事業で市民、ボランティアの方々に認知されている事業である。ボランティア同士の交流の場としても活用いただいている事業であり、読書推進と市民協働の両面で効果を生み出す事業となっている。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度と同様30名ずつ会場に入れるかたちを取り、対応した。
9	青空子どもとしゃかん (中央図書館)	例年実施 (昭和62年頃から継続実施)	図書館と図書館の読み聞かせボランティアグループが協力し、図書館入り口前、公園において、各団体のおすすめ本の展示を行い、貸出をした。 合わせて、マイクを使い適度な距離をとって絵本の読み聞かせを行った。 子どもたちに、夏の暖かい気候と文化公園の自然のもと、野外で本を選んでもらうことで本に興味をもってもらうきっかけにしたい。	にじのはし 苦小牧子どもの本の会 でんでんむしサークル	令和 4年 8月11日 (115人)	天気に恵まれ、熱中症などの大きなトラブルもなく、子どもたちも保護者の方も珍しがって楽しそうにしていた。 コロナ禍で読み聞かせが難しい中、マイクを使い適度な距離をとりながら読み聞かせを行った。また、リズム体操の絵本のときには、身体を動かし参加してくれた。 子どもたちが外で楽しそうに絵本を選んで借りる様子や、借りた本をたくさん抱えて帰って行くところを多く見かけた。

No.	協働事業の名称 (担当課)	実施区分	協働事業の目的、内容等	取組に関係した団体等	実施年月日、参加人数	取組の効果、市民からの反響等
10	苫小牧市美術博物館ボランティア運営登録事業 (美術博物館)	例年実施(平成24年頃から継続実施)	美術や博物事業に関する見識や熱意を有する方々の協力を得て、市民と協働した美術博物館活動を組織的に推進し、館事業の円滑な運営を図るため、ボランティア登録制度を導入し、活動を行うために必要な支援を行う。	苫小牧市美術館友の会	令和4年4月28日(22人) 令和4年7月29日(14人) 令和4年9月16日(27人) 令和4年11月25日(22人) 令和5年1月27日(21人)	各展覧会において、案内・監視業務をしていただいたことで、職員の業務負担が軽減されるとともに、展示室内の変化にいち早く気付き、対処することができた。監視業務においては、来館者の反応や展示に関するご意見を学芸員に伝えていただいたことで、細やかな対応をすることができた。また、年5回実施した研修会では、当館の事業に対する理解を深めていただけたと同時に、展覧会前の展示解説は好評を得ている。
11	宇宙少年団苫小牧分団月例会 (科学センター)	例年実施 (昭和62年から継続実施)	YAC(日本宇宙少年団)の苫小牧分団により、毎月第2土曜日に子どもたちを対象とした宇宙に関する工作教室等を開催している。様々な宇宙教育実践活動を通じて宇宙への関心・興味を持ってもらい、好奇心や冒険心を備えた創造的な子どもたちを育成することを目的としている。	YAC日本宇宙少年団苫小牧分団	令和4年4月9日(15人) 令和4年5月14日(4人) 令和4年6月11日(12人) 令和4年7月9日(12人) 令和4年8月6日(8人) 令和4年10月8日(10人) 令和4年11月12日(20人) 令和4年12月17日(20人) 令和5年1月14日(12人) 令和5年2月11日(18人) 令和5年3月11日(16人)	宇宙に関連するものを題材とした多彩な内容の工作づくりや宇宙をテーマとする講義などを開催しており、毎回多くの子どもの参加している。
12	発明工夫工作教室「AM/FMラジオを作ろう」 (科学センター)	例年実施 (平成22年頃から継続実施)	AM/FMラジオの組み立てを通じて、子どもたちに電波の仕組みを学んでもらい、ものづくりの楽しさを感じてもらおうことを目的として開催している。	日本無線(株)北海道支社、(株)電気工事西川組、苫小牧発明研究会	令和4年7月23日(25人)	参加者からクイズ形式でラジオに関する知識を学んだり、自分で組み立てたラジオを聞いたりすることができて楽しかったとの感想をいただいている。
13	なぜなにレクチャー (科学センター)	例年実施 (平成22年から継続実施)	子どもへものづくりの楽しさを伝え、科学技術に対する興味や夢を育むことを目的として開催している。小学校4年生から6年生を対象に、オンラインで飛行機が飛ぶ仕組みをレクチャーし、模型飛行機を製作・実験する内容である。	トヨタ自動車北海道(株)	令和4年12月27日(18人)	新型コロナウイルス感染症拡大のため3年ぶりの開催となった。初の取組みであるオンラインでの実施であり、従来通りの応募があるか懸念されたが、定員を超える申し込みがあった。複数の講師がグループに分かれた子どもたちに講義をする形式であり、トラブル防止策が万全に講じられていた。